

第3版の序

麻酔科医が使用する薬剤について、研修医や他科の医師から使い方を尋ねられることがある。その問い合わせは、「麻酔科的な使い方」を知りたいという意図にほかならない。麻酔科の薬剤は、その「さじ加減」一つで患者の状態を左右することがある。だからこそ、実用的で、かつ実践の場で即役立つ薬剤ノートが必要だと考えた。

本書はありふれた「薬品集」ではない。周術期に頻用される薬剤を厳選し、麻酔科医ならではの視点と工夫を加えた実践的な一冊である。薬剤の選定においては、古い薬を果斷に削除し、現場で使用頻度の高い薬剤を採択した。内容はシンプルかつ直接的で、臨床のスピード感に即した情報提供をめざしている。

今回の第3版では、薬価については改定が頻繁なため、細かい数値をまるめ、おおよその数値を記載した。読者が薬価についても日頃から意識をもち、適切な医療コストを考慮した診療を行うことを期待するのは変わらない。医療現場における資源の有効活用を考える契機となれば幸いである。

また前版同様、1薬剤1ページを基本とし、必要に応じてコラムや解説ページを追加した。薬理や薬剤の特性、特殊な使用法についても簡潔に解説し、適応外使用に関しても明確に記載した。文字表現は回りくどさを排し、短く的確な言葉で構成している。学習や診療に集中できるよう、正式名称ではなく略称を採用し、読みやすさと使いやすさを両立させた。

本書がめざすのは、周術期医療の現場で即戦力となることである。研修医はもちろん、外科系医師、看護師、薬剤師、MEなど周術期医療に携わるすべての医療従事者に役立つ内容となることを確信している。麻酔科医が薬剤をどう使い、何を考えているのか、その本質を本書から感じとってほしい。

本書に記載された内容を補足したい場合やさらに詳しく確認したい場合には、以下のURLを参照されたい。

PMDA 医療用医薬品 情報検索

<https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>

この第3版が、読者の皆様の日々の臨床に確かな力を提供する一助となることを願う。

2025年4月

讃岐 美智義